

新シリーズ刊行によせて

土 井 恭 次

季刊誌「熱帯林業」がはじめてこの世に出たのは昭和41年9月でした。前年の6月に熱帯林業研究会が作られ、それが1年たって熱帯林業協会となり、その機関紙として刊行されたのでした。創刊号には協会設立の趣旨と発刊の辞（三浦伊八郎先生）がのせられ、戦後20年、漸く活発になってきたわが国の熱帯地域における経済進出の様子があがられます。

しかしながら、協会設立後七年目に第一次石油危機に、さらにその6年後に第二次石油危機に見舞われ、日本経済全体がその様相を一変させてしまいました。また熱帯地域諸国のナショナリズムの高まりと、森林資源に対する統制の強化は、従来通りの対応を困難ならしめ、国際的な協力事業が多くなってまいりました。そして、熱帯林業協会は去る3月31日解散したのでした。

「熱帯林業」72号に、北野至亮氏が、敢えて最終刊号にはしなかった、熱帯林業の火は消したくない旨述べておられます。この数年間、「熱帯林業」に惜しみない愛情を持ってその編集に協力してきたメンバーを中心とした有志は、何としても廃刊は回避しようと鋭意努力してきました。その有志たちの企てに対して、旧熱帯林業協会員をはじめ、多くの方々のお力添えがあって、ここに「新シリーズ」を刊行することができるようになったのです。刊行継続をはかった有志の諸兄、その呼びかけに早速に応じて下さった皆様、そして刊行元の海外林業コンサルタンツ協会のご尽力に心から敬意を表する次第です。

熱帯林業協会の解散は残念ではありますが、こんご益々重要性が増大する熱帯地域の森林とこれを活用する林業の諸問題を論じ、各方面からの情報を交換し合うわが国唯一の専門誌として、立派に成長し続けるであろうことを念願し、新シリーズ刊行によせることばといたします。